

自分が支え、支えられる税制度

河北町立河北中学校 3年 足立 大河

僕は、一昨年の春休みにルーツ巡りとして香港を訪れた。僕が産まれる直前まで、父の仕事の都合で生活し、香港の病院で診察を受けて育った。その後、帰国したが中学生になったことをきっかけに、両親と兄が生活していた香港とはどういう国なのかを知る旅に出かけた。

香港の空港に着くと、ありとあらゆる場所に「免税」という看板が掲げられていた。僕は、両替をしてお菓子を買ってみると、表示価格のままの金額で買うことができた。これに僕は、消費税のかからない素晴らしい国だと感激し、母に

「消費税がかからないこの国での生活は、商品が安く買えて最高だね。」
というと、

「メリットばかりではないんだよ。消費税がなかったり、国に支払う税金が少なかったりする分、医療費などは自己負担なんだよ。」と教えてくれた。実際に、僕が産まれるまでの健診の費用はすべて自己負担で、一回の費用が約二万円かかり、出産まで、トータルすると約三百万の費用がかかるのを聞いた。日本では約五十万円ということも聞き、その差にとても驚いた。そこで、他国の税制についても興味が沸き、税への関心を持つきっかけとなった。

その旅がきっかけとなり、異国への興味が沸いた僕を見て、母が学生時代に留学していた台湾へと連れていってくれた。台湾では、また制度が違っていて、消費税は五パーセントかかり、税込みで表示された金額をそのまま支払った。医療費は、日本と同様に、台湾の住民を対象とした全民健康保険というものがあり、保険料率が五・一七パーセントだった。出産費用についても調べてみると、トータルの金額が約三万円と低く、大部分が補助されると知った。三国を比較すると、同じアジアでも、税制が全く違うことを知った。

また、香港と台湾を訪れて、貧富の差が激しいことを感じた。両国ともに、観光地がにぎわう反面、地方ではお金をもらいに観光客に近寄る姿があった。これを見て僕は、日本人で良かったなど強く実感した。そして、母がよく言う、「私たちは国に守られて生きている。」

という言葉の意味がよく分かった。

僕の父は、僕が生後二か月のとき、香港で病死してしまった。それでも僕が不自由なく、暮らしているのは、この税制度があるからだと強く実感した。僕はこの恩返しができるよう、学校生活でたくさんの事を学び、将来は社会のために役立つ人間になりたい。そして、自分は税に支えられて生きていることを実感し、これからもしっかりと税を納めていきたい。